

## 大淀プラザ ホームレス支援から地域のネットワーク／人材の創造

旧大淀区天七に立地し、近接して更生施設や一時保護所、ホームレス自立支援センターの大阪市の日雇、ホームレス支援施設があります。元銭湯を利用した本プラザは、ホームレス現象のオブザーバトリ(観測所)として後方支援にあたり、同時に広い空間を利用した、アートによる地域ネットワーク創造、人材創出の拠点をめざしています。

### 大淀プラザ新装開店！と芋プロジェクトのその後

2009年10月より、(旧)長柄プラザは天神橋筋7丁目に移り、「大淀プラザ」として生まれ変わりました。最大の目玉は、かつてのお風呂屋を利用している点で、木造りの番台、タイル張りの浴槽、見慣れた洗面器などが営業当時のまま残されています。脱衣場だけでも30名程度が利用できる広さがあるため、イベントや研究会などに活用でき、白いタイルが印象的な浴槽はアート作品の展示スペースとなります。また引き続き、更生施設「大淀寮」の利用者及び退所者(OB)のモニタリングを実施していく予定です。

さて、「2009芋豊作プロジェクト」のその後ですが、ホームレス自立支援センターOBで植栽技術者の指導のもと畑は再生され、10月21日(水)、地域の幼稚園や保育所の子どもたちを招待して芋掘り大会が行われました。園児以上にはしゃぐ老人会スタッフ、大淀寮OBの姿が印象的でした。

■葛西リサ(G-COE特別研究員)



芋掘り大会の様子

## ホームレス現象の観測所としての大淀プラザ — 新年度の企画 —

大淀プラザは今年度、単身高齢者の暮らしについて考えることを企画しています。

高齢単身世帯の増加は全国でも顕著であり、2005年の387万世帯(高齢世帯の28.5%)から、2030年には約2倍(同37.7%)になることが予測され(国立社会保障・人口問題研究所)、高齢期の住生活の充実が課題となっています。



「脱衣所」で行われた研究会

大淀プラザが関わっている大淀寮(生活保護施設)の退所者は、多くが単身高齢者で地域交流が希薄です。退所者で作るOB会(会員約230名)の一部会員は施設に定期的に来所し、施設職員との交流はありますが、地域との関わりは密接とはいえ、またそのような交流の場も十分ではありません。一方、大淀プラザ周辺にも高齢者が多く居住しており、単身高齢者の生活という点では、共通の課題をもっています。

このようなことから、大淀プラザでは、2010年4月21日(水)、地域の人々も集まることができるような座禅会を企画しました。これは、地域に住む高齢者の生活実態把握も目的にした企画であり、集う人々が生活の問題を語るような会となりました。

■堀江尚子(大淀プラザ研究補助スタッフ)、葛西リサ(G-COE特別研究員)